

第 1 展示室

琉球王国における中国の硬貨

14 世紀後半から、琉球の王たちは、中国の明王朝に貢物を送って返礼を受け、中国の港で安定した交易を行うことができるようになりました。中国はアジア地域を牛耳る経済大国であり、中国の銅の通貨は貿易における支払いの標準として、多くの国で広く流通していました。沖縄では、異なる時期に異なる都市で鑄造された何千枚もの古代中国の硬貨が出土しています。これらの硬貨は、一般人が住んでいた町の発掘調査でも、位の高い人々が暮らした城や宮殿の発掘調査でも見つかっています。船が航路を外れてしまった韓国人が 1456 年に残した記述には、中国の硬貨が琉球の市場で使われていたとあります。

硬貨の種類と起源、そしてそれらが見つかった場所を分析すると、琉球経済とその貿易関係が照らし出されます。ほとんどの硬貨は、首都である首里と主要港である那覇という琉球王国の経済の中心地で発掘されました。中国の硬貨は、これらの都市で暮らし働いていた人々によって日常的に使用されていました。今帰仁は首都からかなり離れていましたが、城や付近の村で約 1,500 枚の硬貨が見つかっています。そのほとんど（合計 1,381 枚）は、城の最上階（主郭）で発見されており、支配者層の裕福さと彼らが行った経済活動の規模を示しています。発掘された硬貨の数は、社会的および経済的地位が低い人々が住んでいた場所では比較的少なくなっています。